

国際交流基金 インターンプログラム

タイ・スィーパトゥム大学

2014年8月17日～2014年9月13日

学習院大学文学部

日本語日本文学科3年 青木理彩

1. 派遣先概要

スィーパトゥム大学 (Sripatum University : 略 SPU) は、タイ王国において伝統的にして、格式・由緒ある私立大学の一つだと言われています。1970年5月28日「タイ・スリヤー・カレッジ(Thai Suriya College)」という名称を以って、スック・プカヤポーン博士 (Dr. sook Pookayaporn) によって設立されました。そこから、タイ王国母殿下により「スィーパトゥム大学」と命名されました。1987年7月19日タイ王国政府の官庁である大学庁(現教育省高等教育委員会事務局)より、「大学」に昇格されました。現在、3つのキャンパスがあり、私が実習を行ったキャンパスは、バンコク都にあるメインキャンパスであるバンケーン・キャンパスでした。

在籍学生総数は、約25,000名で、学部課程・約24,000名、大学院課程(修士・博士)約1,000名です。現在11学部(41学科)及び大学院(17修士課程・6博士課程)課程を開設・開講しています。私はこの中の教養学部(観光学科、ホテルビジネス学科・エアライン学科)で実習を行いました。「日本語」は主専攻ではなく、教養学部の学生の選択必修科目として採用されています。日本の大学でいう「第二外国語」にあたります。

2. 渡航までの準備

渡航までの準備では派遣されたのが私一人であった為、すべて一人で用意しました。

【予算計画書】プログラムに参加するにあたり、渡航前に予算計画書、帰国後には精算報告書を必ず作成します。書き方は以前参加した方に聞きつつ、その方の計画書を参考にして書きます。予算書を作成する際には必ず領収書、または見積書などを貰うようにしてください。

【航空券・保険購入】航空券は旅行代理店を通して手配しました。保険はAIU保険の海外旅行保険に加入しました。保険は金額証明に関して融通が利かないものがあるので確認をしながら準備を進めた方がいいかと思います。

【言葉】タイ語は、日本でほとんど勉強していきませんでした。あいさつ程度は覚え

ていくといいと思います。タイ語の会話集を購入し持参しました。現地の方は英語があまり通じないと感じたので大学での学生たちとのコミュニケーションはもちろん、生活する上でもあると安心だと思います。

【文化】タイの方は本当に親切で、常に笑顔で接してくれ、本当に温かい国です。食べ物ですが、辛い物は本当に辛く、甘いものは本当に甘いです。そんなに辛くないと学生に教えられたものでも私からすると結構辛いと感じました。辛くないものや辛さを調節できるものもあるので、問題ないと思います。

【お土産購入】お土産は学校へのお土産と学生へのお土産を購入しました。学生には日本でよく食べるようなスナック菓子や飴、駄菓子をたくさん持っていきました。コミュニケーションのきっかけになると思うので色々な種類を持っていくといいと思います。また日文科のファイルを持っていき、特に仲よくしてくれた学生たちに配りました。お菓子の他に何か手元に残るようなもの（文具、ストラップ）もいくつか持っていくといいと思います。

【宿泊施設】大学の近くのサービスアパートで4週間生活しました。宿泊施設の手配はスィーパトゥム大学の高橋先生がして下さいました。大学へはバスで20分程度、バス停もアパートを出て大通りを渡ってすぐのところにあります。アパートの隣にはセブンイレブンがあり、大きなショッピングモールもすぐ近くにあるなど、とても立地の良いところでした。部屋は週2回お掃除をしてもらえ、バスタオルの交換もしてもらえます。無料でwifiも使用できました。スタッフの方もとても親切でフレンドリーな方たちでした。こちらの予算書は渡航前にメールでお送り頂きました。

【あると便利な持ち物】日本のガイドブック、大学のパンフレットは必ず持っていった方がいいと思います。また日本のおもちゃ（けん玉、お手玉、折り紙）などもあるといいと思います。自分の普段の大学生活がわかるように、写真をアルバムにして持っていくのもコミュニケーションのきっかけになると思います。パソコンを持参しても使うことができます。

3. 現地までの交通手段

羽田空港から飛行機に乗り、スワンナプーム空港まで行きました。その後アパートまではタクシーに乗りました。高橋先生がアパートまでの地図をメールで送ってくださったので印刷して持って行きました。

4. 実習内容

【概要】SPUの日本語の先生は日本人の先生がお2人（男性1名、女性1名）いらっしゃいました。

SPUの日本語クラスは初級のレベルを3つに分け「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」「日本語Ⅲ」を設置しています。一番上級の「日本語Ⅲ」では初級後半の日本語を学習します。ま

た「日本語Ⅳ」というクラスも設置されています。このクラスではホテルビジネス学科の学生のための日本語、観光学科の学生のための日本語、とそれぞれの職業で使われる場面を想定し、実際にその場面で日本語が使えるようになるための授業が行われていました。「日本語Ⅰ」のクラスは3、40人、私が担当させて頂いた「日本語Ⅲ」、「日本語Ⅳ」のクラスはそれぞれ10人ほどで編成されていました。授業は一コマ110分で、1クラス週2日開講されていました。クラス環境はパワーポイントを使える環境ですが、実習の際は使用せずに授業をしました。学生たちはとても勉強熱心で、協力的だったので私も何とか授業をすることが出来たと思います。先生方はタイ語もお話できるため、特に「日本語Ⅰ」の授業ではタイ語で話される時間がほとんどだったように思います。レベルが上がるごとにその時間を短くされていっているのではと感じました。

【服装】女性はスカート、男性はスーツが基本の服装になります。TAは普通のスーツを一式持っていけば問題ありません。ただ大学内の教室はクーラーがかなり強いのでカーディガンなど1枚羽織れるものが必要だと思います。あちらの気候は私が行った8月、9月は雨季にあたり、湿度は少し高いですが気温はそれほど高くなく、過ごしやすく感じました。

【教壇実習】私は「日本語Ⅲ」のクラスの110分の中の40分を週に2回、「日本語Ⅳ」のクラスの110分の中の20分を週に1回、担当させて頂きました。テキストは「日本語Ⅲ」では「みんなの日本語」をもとにしたSPUオリジナルのテキストを使用し、「日本語Ⅳ」もそれぞれの職に合わせて作成されたオリジナルテキストを使用していました。

授業全体の流れは前半でその課の文法説明や練習を先生方にさせていただいた後、後半、TAがそれらの文法を使った会話練習を日本語で行いました。語彙の確認のためにフラッシュカードや絵を描いて説明しました。

私が「日本語Ⅲ」で担当した課は「みんなの日本語Ⅱ」の27課～29課です。1つの課を2回の授業に分けて学習します。「日本語Ⅳ」のクラスではホテルビジネス学科の学生のための、ホテルでの場面を扱う課を担当しました。

実際の授業を行うまでには、教案作成、教具作成、板書計画、そして先生方の添削をして頂き、修正をして授業に臨みます。授業終了後には先生方からフィードバックをして頂きます。私は人に何かを「教える」ということ自体が初めてでしたので、最初は戸惑いばかりでした。教案を作っても最初はその通りに授業が出来ず、日タイのフラッシュカードを作りましたが、タイ語を書くのも難しく、全員に伝わるように絵を描くのも難しかったです。

ですが先生方の丁寧なご指導を頂き、授業は一方的になってはいけない、理解して

もらうために一つ一つ順序だてて学習内容を示していくことが大切であることなどを教わりました。そのためには授業で自分が発する言葉ひとつをとっても本当に重要で、どんな言葉を例として挙げ、どんな絵を描き、どのように板書をして、どのように指名して進めていくのかなど、本当に細かいところまで考えなければいけないということ学びました。たくさんの方を教えることができましたが、自分が満足できる授業はこの4週間で完成させることができなかつたように思います。ただ最初に比べてほんの少しですが、どのように授業を組み立てるのか、どのように進めるのか、どのように声をかせば学生は続いてくれるのかなどが分かるようになったことは成長できた所でもあったかと思ひます。本当に大変でしたが、こんなに貴重な経験ができた私は本当に幸せだつたと思ひます。先生方の丁寧なご指導とあたたかい学生たちのもとで教壇に立ち、「日本語を教える」ということに精一杯取り組んだこの4週間は私の人生での大きな財産です。



【教室外活動】「日本語Ⅲ」を履修している学生たちとは授業後に一緒にお昼ご飯を食べたり、学校内や学校のまわりを案内してもらいました。いつも笑顔であたたかい学生たちで、日本人TAが私一人で少しさみしい時もあったのですが、学生たちにたくさん元氣をもらっていました。日本語がたくさん話せるわけではなく、コミュニケーションが難しい時もありましたが、一生懸命話そうとしてくれます。学生たちと過ごす時間は本当に楽しかったです。

【日本語パーティー】授業時間外に1度、日本の文化を一緒に体験する日本語パーティーを行いました。じゃんけん、日本のうた、けん玉、折り紙などを行いました。授業もちろん楽しかったのですが、このパーティーもみんなで楽しむためにはどうすべきかを考え、行動するのが難しかったです。この時は別プログラムで福井大学の学生がSPUに来ていて、一緒に参加してもらったのでとても心強かったです。本当に感謝しています。



【サトリーノンタブリー学校訪問】隣の県にあるサトリーノンタブリー学校で日本語を学んでいる高校1年生と高校3年生のクラスでじゃんけんを教え、チーム対抗でじゃんけん大会をしました。こちらの学校は女子高で、中学1年生から高校3年生が学ぶ中高一貫校でした。外国語は選択制で他に中国語やドイツ語も選択できるそうです。

タイの女子高生はとても元気で積極的に参加してくれました。この訪問が私のタイでの初めて教壇実習でした。とても緊張しましたが、生徒さんたちのパワフルさに助けをもらい、やりとげることが出来ました。実際に教壇に立っている時は夢中でしたが、本当に楽しかったです。またそちらで日本語教師をされている先生にも実際にお話を聞くことが出来、とても勉強になりました。



【日タイ言語研究会・研究発表大会】タイで日本語教師をされている先生方などがお集まりになる研究会に参加させて頂きました。この時は日本語の主専攻があるチャンカセーム・ラチャパット大学が会場であったため、日本語を専攻している学生も参加していました。また日本語を学んでいる大学院生の発表も聞くことが出来、日本語のレベルの高さに驚いたのはもちろん、テーマも深いものを取り上げてとても勉強になりました。またこちらの大学で日本語教師をされている井尻先生をはじめ、タイで日本語教師をされている先生方のお話を伺うことが出来、大変貴重な経験をさせて

頂きました。

5. 最後に

このプログラムに参加し、タイで過ごした4週間は初めての経験の連続で本当にあつという間でしたが、密度の濃い、忘れられない時間です。大変なこともありますが、参加することが出来て本当に幸せだったと思います。実際に教壇に立ち、学生たちと向き合い、教えるということに向き合った時間は色々な面で私を成長させてくれました。こんなに素敵な経験が出来たのも、村野先生をはじめ、SPUの森先生、高橋先生、学生たちや本当にたくさんの方々のご支援があつてこそのものでした。お世話になりました全ての方々に感謝しております。ありがとうございました。そして是非多くの方々にこのプログラムに参加して頂けたらと思います。SPUでのインターンシッププログラムの益々のご発展をお祈りしております。

